# 南極から附中へ

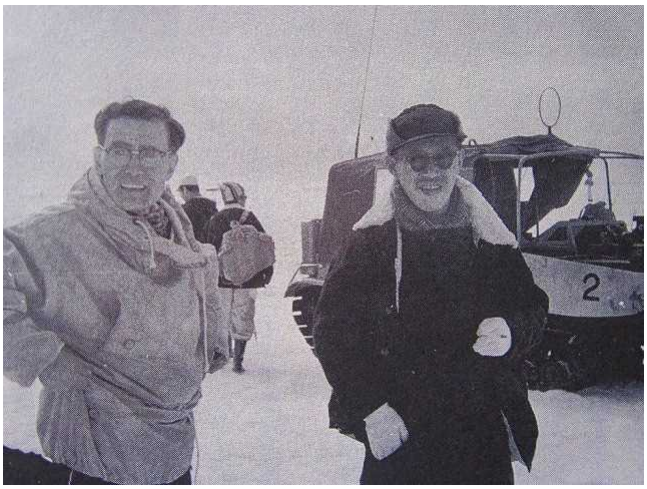
## 南極観測隊員のつぶやき

令和２年度 愛知教育大学附属岡崎中学校
校長通信　第 20 号　令和２年５月 15 日

### ◯南極の人びと　永田　武（ながた　たけし，1913-1991）

・永田武は岡崎市出身、東京大学教授、第１次南極地域観測隊隊長。戦争中、挙母町（豊田市）に疎開していますが、白瀬矗も同じ町で亡くなっているという縁があります。

・世界各国が本格的な南極大陸での観測を始めるにあたり、日本は第二次世界大戦の敗戦国唯一の参加ということから、多くの国から日本の参加は時期尚早と非難されました。しかし永田先生は、日本の平和協力・白瀬矗の功績を主張され、日本の南極観測が始まりました。はれて日本は南極条約原署名国 12 ヵ国になりました。



左：永田武　　右：第１次越冬隊長西堀栄三郎
（日本極地研究振興会ホームページ）

・日本が観測を担当することになった地域は、東経 30 度と東経 45 度の緯線と南極点を結ぶ扇状の地域で、この地域はノルウェーが基地建設を諦めた地域です。当時、この地域の南極大陸の海岸線は「接岸不能地域」と言われていたそうです。

・1956 年 11 月 8 日、東京晴海ふ頭を出港し、1957 年１月 29 日にリュツォ・ホルム湾のオングル島に昭和基地を建設しました。出発当初、越冬の予定は無かったそうですが、永田先生のリーダーシップのもと、急遽編成され、実現・成功されたそうです。この強靭なリーダーシップは、現在でも南極観測隊隊長に求められる資質となっています。

上陸時の写真（村山コレクション）